

ORACLE ENTERPRISE REPOSITORY

エンド・ツー・エンドのライフ・サイクル管理により、投資収益率を確保

機能

- ライフ・サイクル管理
- 高度な登録ワークフロー
- 簡単なナビゲーション
- メトリックと分析
- ポリシー管理
- 組込みベスト・プラクティス
- 拡張可能なメタデータ管理
- IDE のプラグイン

おもな利点

- 資産をエンタープライズ全体で包括的に可視化することにより、冗長性が最小限になり、再利用が最適化され、ROI が向上します。
- API、サービス、ビジネス・プロセス間のリレーションシップをグラフィカルに表示することにより、ビジネスと IT との連携を最大化します。
- 進捗状況と価値を追跡して説明する堅牢な分析を使用することにより、採用と成長を推進します。
- 異機種 IT 環境間の管理を拡張することによって、すべての資産を包括的に管理し維持します。

現在、IT によって、人、プロセスおよびテクノロジーが動的な分散環境で接続されており、デスクトップやモバイル機器などの複数のチャネルが提供されています。現在の経済では、革新をもたらし、競争力を発揮するための俊敏性が求められる一方で、複雑さと規模はこれまでに例を見ないほど増加しています。リスクを軽減するために、企業は IT 投資を制御して追跡し、確実に企業目標と一致させる必要があります。Oracle Enterprise Repository は、API ライフ・サイクル管理と SOA ガバナンスの堅固な基盤を作成します。これにより、API、サービス、および他の統合アーチファクトに関連する変更やプロジェクトのビジネス面での影響を包括的に把握できます。

統合されたクローズドループの API ライフ・サイクル管理と SOA ガバナンス

ますます多くの企業が、社内チームと同じように外部の開発者コミュニティも API やサービスを利用できるように公開しようとしています。全体的に成功を収めるためには、重要な側面が多数あります。これには、API やサービスが存在することを公開するだけでは足りません。このプロセスは、コラボレーティブで総合的なアプローチによって、ライフ・サイクル全体をカバーし、部門や地理的な枠を超えてリソースを統合する必要があります。これは、企業内にとどまっている貴重なコンテンツや機能を速やかに公開しながら、社内の意思決定やコンプライアンスをサポートすることを意味します。Oracle Enterprise Repository は、コンシューマ、プロバイダ、ポリシー決定ポイントおよび追加のガバナンス・ツール間で、メタデータや情報を自動交換するための共通の通信チャンネルを提供します。

これらのアプリケーションが連携することにより、開発者やアーキテクトのコミュニティが社内の統合資産の価値を最大化するために必要な可視性、フィードバック、制御および分析が可能になり、新しいビジネス・チャンスに組み込まれます。目標が、SOA の研究拠点を作って SOA ガバナンス経路で一貫性のあるプロセスを構築することであっても、モバイル・アプリケーションを構築する開発者のコミュニティ向けの API ライフ・サイクル管理を実装することであっても、Oracle Enterprise Repository は、おのおののドメインに関連した課題のライフ・サイクル管理のあらゆる側面を取得、自動化および一元化するための重要なコンポーネントです。

Oracle Enterprise Repository は、包括的な自動化機能によって強化されており、プロセスを効率化して再利用を最適化し、サービスと API の採用を促進します。このソリューションでは、以下によって成功の基盤が確立されます。

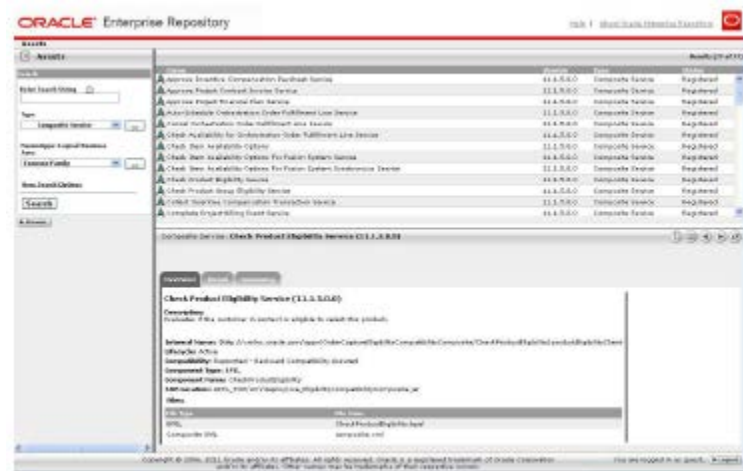
- 異機種 IT 環境間のガバナンスを含む管理
- 自動化の拡張とベスト・プラクティスの組込み
- ビジネス面の成果の重視

ORACLE ENTERPRISE REPOSITORY

一元化されたリポジトリ、ポリシーの施行、およびキー・パフォーマンス・インディケータの追跡により、ビジネス価値の構築と成功の実現に必要な基盤を利用します。

関連製品

Oracle Web Services Manager
Oracle Enterprise Manager SOA Management Pack



図：Oracle Enterprise Repository

おもな機能

Oracle Enterprise Repository は、統合されたエンド・ツー・エンドのライフ・サイクル管理を実現しながら、共通の課題を克服し、ビジネスおよび IT の専門家が広範なエンタープライズ全体の中で作業する方法を根本的に変えるために次の機能を利用します。

エンタープライズの可視性

API、ビジネス・プロセス、サービス、アプリケーション、コンポーネント、モデル、フレームワーク、ポリシー、およびデータ・サービス向けの一元的なリポジトリを通じて、ソースに関係なくすべての資産がロールベースで表示されるようにします。開発中に資産を表示させることにより、冗長性が最小化し、サービスのコラボレーションと再利用が促進されます。

エンド・ツー・エンドのトレーサビリティ

資産対資産および資産対プロジェクトの関係と相互依存性をグラフィカルに表示してナビゲートすることにより、ユーザーによる資産の編成と、関連するビジネス・プロセスへのリンクが可能になり、影響分析が簡素化して、ビジネスの連携が実現します。

包括的で拡張可能なメタデータ

ライフ・サイクル・ステージ、承認ステータス、ポリシー・コンプライアンスなどでデータを集計することにより、すべての資産情報を記録するシステムを作成します。これにより、組織はすべてのプロジェクト・チームに正しい資産情報を公開できます。

Oracle JDeveloper との統合

開発者は、Oracle JDeveloper 開発環境 (IDE) 内から直接資産を簡単に検索、理解、および消費できます。

自動イントロスペクション

BPEL、Web Services Description Language、XML スキーマ定義の自動イントロスペクションを有効にし、リポジトリのサービスと関係を最新に保ちます。

API および SOA ライフ・サイクル管理

API およびサービスの企画、設計、開発からライブ本番環境でのデプロイと消費にわたるガバナンスの制御、自動化、および管理により、API、プロセス、サービス、および資産ライフ・サイクルの全体をサポートします。

高度な登録フロー

登録とライフ・サイクル管理により、承認プロセスおよび変更管理プロセスを自動化します。完全に自動化されたワークフローにより、資産がエンタープライズ・コンシューマに進む前に標準および要件に確実に合致するようにすることで、組織は信頼を構築してリスクを軽減できます。

ポリシー管理

ポリシーの作成、配布、施行を同時に連携させながら、ポリシー管理を一元化してバージョン管理を普及させることにより、ポリシーおよび組織間のコラボレーションを最適化します。ポリシー管理を促進するにはサンプルが役立ちます。

規範的な再利用

プロジェクトの資産および標準を指示し、コンプライアンス・テンプレートを使用してそれらを提供します。自動的に使用を追跡し、コンプライアンスを測定することにより、再利用を透過的に開発エクスペリエンスへ統合します。

アーキテクチャ制御

ターゲット・アーキテクチャの完成までの進捗を追跡して送信することで、アーキテクチャの連携を維持します。これにより、設計中および構築中にアーキテクチャの標準が実施され、連携とコンプライアンスが確保されます。

測定値の分析

節約を証明し、コンプライアンスを追跡し、進捗状況を表示する 20 以上の標準レポートによって ROI を証明します。レポートはさまざまな関係者を対象としており、ビジネス価値や ROI、再利用、資産使用、およびコンプライアンスによる節約の予測値と実際値などの主要メトリックを使用します。

組込みベスト・プラクティス

組込みのベスト・プラクティスおよびテンプレートの広範な基盤により、作業を活性化し、リスクを軽減します。Oracle Enterprise Repository には、成功を高速化する、以下のようなパッケージ化されたプロセスが含まれています。

- 標準で提供される構成可能なワークフロー
- エンタープライズ・アーキテクチャ向けソリューション・パック
- 資産、ポリシー、メタデータのサンプル
- 事前構成済みの資産テンプレート

お問い合わせ先

Oracle Enterprise Repository について詳しくは、oracle.com を参照するか、+1.800.ORACLE でオラクルの担当者にお問い合わせください。



Copyright © 2013, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載されている内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクル社は本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Hardware and Software, Engineered to Work Together

ORACLE®